

ENGLAND

ICSに3ヶ月の社会人留学

根岸 幸



ICS校にて

英国留学を決めたのは、飛ぶ一ヶ月前。寝言の様に言っていた、夢の様な留学がミッチーの一言で、一ヶ月先の予定に変わった。留学をしたかった自分だが、行き先はドイツ語圏だと思っていた。習いたい演出家がドイツ人だったからだ。そんな彼が言った。「ドイツ語よりも、英語をやれ。」と。英語が出来ない事への不安は驚くほど無かった。勉強していないことが出来るわけがないという聞き直りからか、生まれ持った凶々しさからか…。勉強する間も無く、海を越えた。最初は何一つ分からなかった。クラスの中で綺麗な英語を喋るのは先生だけで、クラスメートはその母国の訛りを持って喋る。自分も、その一人だったのだろう。通じない時は何度も言い、聞き取れない時は聞き返す。分からない事に頷いて、理解したように考えた振りをするのは三日で止めた。分からない事は分からないと言い、授業の流れを止めることに、「こんなのも分からないの?」と思われる事など無視して聞いた。先生が私でも分かるような英語で話してくれたのは嬉しかった。彼は決して私が分からない単語をズラズラ並べたりすることは無かった。

誰もが知る言葉を使い、話を組み立ててくれた。そして私も、自分の持つ単語だけで話を組み立てた。頭で考えることがあるとしたら[どうしたらこの少ない言葉で人に伝えられるか]と言うことだけで、後は何にも考えずに、頭にあることだけで話した。聞くのもまた同じだった。はっきり言って皆が皆先生のように話してくれる訳じゃない。知らない言葉を多く喋る人だっていっぱいいる。それでも理解が出来たのは、その人が口にした自分の知っている単語を聞き取り、その人が何を言いたいのかをその数個の単語から想像したにすぎない。それでも先生は飲み込みが早いと言い、ホストマザーも「日に日に上達している」と言ってくれた。進歩は決して目に映る物では無いけれど、人との会話が厚みを増し、それを実感した。帰国後、良く聞かれる。「英語喋れるの?」の一言。うなずける程喋れた自信は無い。きっと自分の言葉は子供の様だったに違いない。それでも、口を閉ざすよりも、声にし英語を喋った。喋らなかつたら自分の存在は、あつて無い様な物だったに違いない。一言一言が自分の一片一片を表現、形作る。言葉は人と人をつなげる術であり、音楽を表現する楽器のように、自分を表現するモノだと思う。それが 私の中の言葉だ。



ICS校の先生と

ENGLAND

40代にして1カ月英国ホームステイに飛び立つ

山中みずえ



庭の鳥を見ながら朝食を食べていたテーブル

転職が決まり、ぽかんと空いた1ヶ月。憧れだったイギリスにホームステイしよう、とミッチーに相談してから日本を出国するまで、わずか2週間でした。準備はミッチーのおかげで順調に進み、またノーリッチの英語学校ICSは、ヘレン校長が人格的に素晴らしい方と聞いていたので全く心配はなかつたのですが、なにせ40代半ばの初めての海外ホームステイ。外国人にPRできる特技なし、料理ダメ、英語初心者へのハンディを背負ってのイギリス入りでした。行ってみてびっくり、英語の聞き取れなさ想像以上。愕然としました。でもそれを救ってくれたのはICSの先生たち。私の英語レベルのちょっと上くらいに合わせてくれるワザはさすがでした。この私でも、リチャード先生の話す英語がわかるし、話せるし、外国から来た生徒たちとお互い理解しあうことさえできる授業だったので。毎日の授業が楽しみでなり

ませんでした。また、ヒラリー先生との一对一レッスンでは、私の仕事であるマーケティングに関する話題について、初心者英語ながら話しあうことができ、貴重な時間でした。それから、ぜひ言っておきたいのが、ICSで紹介されたホームステイ先のジェーン!客ではなくその家の子供になるつもりで飛び込んだのですが、大成功。思いやりがあつて感性豊かでラブリーな女性だったので。いっしょに庭の鳥を見ながら食べた朝食。朝や夕方の微妙な空の色の移り変わりを味わった。おしゃべりして遅刻しそうになったりもしたっけ。冬の澄んだ冷たい空気、暖かいひざ掛け、庭に来る鳥の声を、今でもすぐそこに感じる事ができます。ジェーンのおうちは私のもうひとつの家です。さて、問題の英語力ですが、イギリスにいる間は「上達しない～」と嘆いていましたが、日本に帰って近くの英会話教室に行ったら、前よりわずかに話せるようになっていた…気がします。ポキャブラーも自然と増えたかしら。なにより、英語を話したり聞いたり楽しいのです。ミッチー、ICSのヘレン、リチャード、ヒラリー。そしてジェーン。高校のときからの英語の苦手意識がいつのまにかなくなっていました。ありがとうございました。



ICS校のヒラリー先生と

CANADA

ビクトリア市立スペクトラム高校校長賞 成績優秀賞を受賞 江原 悠



OL 479-8271	Greater VICTORIA School District NOV 22, 2006	校長賞
COMMENTS		SPECTRUM COMMUNITY SCHOOL Principal's Honour Roll
AN OUTSTANDING STUDENT OUTSTANDING EFFORT AND ACHIEVEMENT A CONSCIENTIOUS AND THOROUGH STUDENT A PLEASURE TO HAVE IN CLASS STUDENT HAS MADE A CONSISTENTLY GOOD EFFORT TO DATE.		
成績表		

冬休みが明け、一学期最後にあるプロビシヤルテストに向けて学校は準備に入っています。そうですね、honour rollに名前が載ったのはなんでなのでしょう。苦労はしましたが、単純なことしかしていません。言ってみれば、頑固、生真面目、完璧主義などから来るものではないでしょうか。要するに、僕の性格だと思います。学校生活が不安だからこそ、完璧主義のままでいた方が良かったと思います。今もそう思っているのかもしれないけど、最近では忘れてます。僕がやったことは、宿題を提出日に提出し、プロジェクトを終わらせ、課題を終わらせただけです。わからないことがあれば、知っている人に聞きました。Honour rollに載るための定義の様な物は、基準の成績を取るだけなので、単純なのです。9月、まだ慣れない中、これから先やっていけるのかどうか自問したとき、just do it!としか思いませんでした。だめだと思ってやめたら、状況は悪くなります。やるしか他にないのです。引き返せないわけですから。僕の状況は崖っぷちなのかも

しれません。この留学を成功させなければ行き場はないのです。今の成績、「良い方」になんとかしがみつつかないのです。11月、成績をもらったとき、honour rollがなにかよくわかりませんでした。良いことではありそうだと思っていました。知り合いにメールを送り、それが何かわかったとき、ほっとしました。グレード10、卒業まで2年と数ヶ月、まだ始まったばかりです。中学に入り、最初の成績が良かったぐらいで、これから先が大丈夫ということはありません。受験で落ちることもあるでしょう。不登校になるかもしれませんし、いじめによって自殺するかもしれません。外国で外国語で外国人と外国の勉強をして、成績が良かったと言うのは、良いスタートだと思いますが、これから先、進路やストレスで両親との対立のような物を予想しています。問題が一つ片付くごとに、新しい問題が出てきます。とりあえず、自分が何かしないと。そうでないと、事が進みません。

知っている便利な英語マナー

紹介の順序

1. 女性に男性を
2. 年長者に年少者を
3. 目上の人に目下の人を
4. 先輩に後輩を
5. 既婚者に未婚者を。

例えば、50歳の未婚男性に20歳の既婚女性を紹介するときは、この様な一般原則を外し、性別は気にせず、2と3を基準にするのが適当。

ジョーク

professional

- a) He's a professional. (彼はプロだ)
 - b) She's a professional. (彼女はプロだ)
- a) ではHeが医者か弁護士を意味するが、b)ではその可能性はなく、彼女は売春婦であると言う事である。この様な曖昧さを心配する場合は He's / She's a professional lawyer とか具体的な職業名をつけるべし。